

県東彩のかがやき)▽静岡西部にこまる(←静岡東部・中部・西部にこまる)▽山口コシヒカリ(←県中コシヒカリ)▽山口ひとめぼれ(←県中ひとめぼれ)▽香川コシヒカリ(←香川中讃コシヒカリ)▽香川ヒノヒカリ(香川中讃ヒノヒカリ)▽香川おいでまい(香川東讃・中讃・西讃おいでまい)

〈減少〉▽山形庄内ひとめぼれ▽山形置賜コシヒカリ▽茨城県南・県西コシヒカリ▽埼玉県北彩のきずな▽高知県中コシヒカリ▽高知県西コシヒカリ▽高知県北ヒノヒカリ▽高知県西ヒノヒカリ

◆サタケ、中国の吉林省農業科学院と包括技術提携契約を締結 (株)サタケ(佐竹利子代表)は11月7日、中国の吉林省農業科学院との間で包括技術提携契約を締結した。吉林省農業科学院は吉林省政府直轄の研究機関で、水稻研究所など19研究所で農産物の育種・栽培試験などを行っている。現在は「水稻品質国際連合センター」の設立を計画しており、同センターを中心に(株)サタケとの共同研究を進めるため、今回の提携に至った。

(株)サタケでは2007(平成19)年9月に国家糧食局(現・国家糧食和物資備備局)と包括技術提携契約を締結して以来、継続して共同研究を行っており、中国の農業・食糧行政機関との包括技術提携契約は2例目となる。(株)サタケは「米品質分析・評価に関する技術の提供を進めるほか、品質向上に資する乾燥調製・貯蔵技術の提案なども、積極的に行っていく」としている。

◆ノングルテン米粉認証第2号に(株)ネティエノ「やのくに純真米粉」 ノングルテン米粉の認証機関である(一社)日本環境保健機構(佐川久美子会長)は11月10日、(株)ネティエノ(山口・田布施町、波賀正一社長)の「やのくに純真米粉」をノングルテン米粉の第2号として認

証した。ノングルテン認証は「米粉製品の普及のための表示に関するガイドライン」に基づき、グルテン含有量1ppm以下の米粉に与えられる認証。6月14日にみたけ食品工業(株)(武内秀行社長)の「米粉パウダー300g」が認証を受けて以来の第2号認証となる。

(株)ネティエノは移植から収穫、精米・色選、保冷倉庫への保管まで一貫した稲作を行っている。今年2月には専用の米粉製粉工場が完成し、米粉専用の製造ラインでコンタミを防いでいる。今後は「ノングルテン米粉100%の食パンやコッペパンの製造を目指したい」としている。

イベント

◆山田屋本店「OKOME COLLECTION」大盛況 (株)山田屋本店(東京都調布市、秋沢淳雄社長=17ページ写真左)は10月21日、銀座三越で第1回「OKOME COLLECTION」を開催した。同社が銀座三越などに outlets している「米屋彦太郎」の「看板娘、秋沢毬衣さん(17ページ写真右)の発案によるイベント。今回は「平成生まれ、がテーマの通り、平成に生まれた以下の13銘柄を比較試食できる(カッコ内は本格デビュー年産)。▽青森「青天の霹靂」(27年産)▽秋田「つぶぞろい」(27年産)▽秋田「秋のきらめき」(27年産)▽宮城「だて正夢」(30年産)▽宮城「ささ結」(27年産)▽山形「つや姫」(20年産)▽山形「雪若丸」(30年産)▽岩手「金色の風」(29年産)▽岩手「銀河のしずく」(28年産)▽新潟「新之助」(29年産)▽福井「いちほまれ」(30年産)▽兵庫「いのちの壺」(18年産)▽佐賀「さがびより」(22年産)。

会場では各産地の県庁や全農県本部、単協、生産者が自県産米を消費者に直接PR。食べ比べのほか、販売コーナーでは午後の時点で欠品



が出ている品種も食べ比べのイベントリアクションが練習の上で面白い。劣を競ったりする面白さで消費者がしてくれている。是非また出たい」

発案者である米屋彦太郎さん(17ページ写真右)の発案によるイベント。今回は「平成生まれ、がテーマの通り、平成に生まれた以下の13銘柄を比較試食できる(カッコ内は本格デビュー年産)。▽青森「青天の霹靂」(27年産)▽秋田「つぶぞろい」(27年産)▽秋田「秋のきらめき」(27年産)▽宮城「だて正夢」(30年産)▽宮城「ささ結」(27年産)▽山形「つや姫」(20年産)▽山形「雪若丸」(30年産)▽岩手「金色の風」(29年産)▽岩手「銀河のしずく」(28年産)▽新潟「新之助」(29年産)▽福井「いちほまれ」(30年産)▽兵庫「いのちの壺」(18年産)▽佐賀「さがびより」(22年産)。

